

## 知っておきたいルール ③サービスの仕方とフォールト

### 【ゲームの状態】

ヤマダ・サトウ組とスズキ・タナカ組は、セルフジャッジでダブルスをやっていました。

**a) フットフォールト:** ヤマダ君が第1サーブをフォールトして、第2サーブを打ったときに、レシーバー側のバックサイドのネット際に構えていたタナカ君が、「フットフォールト」と声を出しました。タナカ君は「ヤマダ君は構えているときはいいが、ボールを打つ直前に左足がベースラインを踏んでいるよ」と言いますと、ヤマダ君は「構えたときにラインを踏んでなければOKじゃないの？」と反論しました。どちらが正しいのでしょうか。

**b) ワンバウンドのアンダーサーブ:** タナカ君はこの日はサービスの調子が悪く、これまでもダブルフォールトを何回かしていました。このゲームもダブルフォールトをして、次のサービスも第1サーブをフォールトしたので、第2サーブをいつもの癖で、打つ前にボールをコートにバウンドさせてサーブをしました。プレーはそのまま続きましたが、これで良いのでしょうか。

**c) サービスの空振り:** サトウ君のサービスのとき、太陽がまぶしくて、第2サーブを空振りしてしまいました。サトウ君はサービスをやり直して、ようやく相手コートにに入れてラリーが続きました。これで良いのでしょうか。

**d) ポストに当たったサーブ:** スズキ君が第1サーブをフォールトして、第2サーブの打ったボールがポストの上端に触れてうまく跳ね返り、このサービスを入れるべき相手のサービスコート内に入りました。レシーバーのヤマダ君が、「ポストはネットやバンドと同じ扱いなのでレットでいいね」と提案して、全員が納得してスズキ君は第2サーブをやり直しました。これで良いのでしょうか。

### 【ルールは】

**a) 「サービス」**は、ベースラインのネットに向かって後方、センターマークとサイドラインの仮想延長戦間に、両足共に地面に着けて立ち、手でボールを空中に投げ、そのボールが地面に落ちる前にラケットで打たなければならない。サーバーは、サービスを行う全期間を通じて、歩行又は走行によって足の位置を変えてはならないし、いずれの足もベースライン後方で、センターマークとサイドラインの仮想延長戦間以外の区域に触れてはならない。

**b) 「フットフォールト」**は、サーバーが上記の a)に違反したとき、ボールを打とうとして打てなかったとき、サーブされたボールが地面に落ちる前にパーマネント・フィクスチュア(ネット、ストラップ、バンドは除く)に触れたときである。

## 【正しい処置は】

**a) フットフォールト:** ヤマダ君は、打とうとしている間にベースラインを踏んでいるので、「サービスを行う全期間を通じて正しく立つべき位置を犯した」ことになり、タナカ君のいうフットフォールトは正しい。しかし、セルフジャッジではヤマダ君のフットフォールトを、タナカ君がコールすることはできない。この場合は、ロービングアンパイアに依頼して、ジャッジをしてもらわなくてはならない。

**b) ワンバウンドのアンダーサーブ:** タナカ君は、ワンバウンドしてさせて打ったのは、「空中に投げたボールが地面に落ちる前にラケットで打たなければならない」に違反しているので、タナカ君の第2サーブはフォールトでダブルフォールトとなる。

**c) サービスの空振り:** 「ボールを打とうとして打てなかったとき」はフォールトなので、サトウ君の第2サーブの空振りはフォールトでダブルフォールトとなる。

**d) ポストに当たったサーブ:** 「サーブされたボールが地面に落ちる前に、ネット、ストラップとバンドを除くパーマnent・フィクスチュアに触れたとき」はフォールトなので、スズキ君はダブルフォールトとなる。

◆ 2015/3/10: a) フットフォールトの正しい処置を修正。

- ・ヤマダ君はフットフォールトではあるが、セルフジャッジでは、タナカ君はそれをコールすることはできない。
- ・ロービングアンパイアに依頼して、ジャッジをしてもらわなくてはならない。
- ・セルフジャッジでは、自分の側のコートについてのみジャッジを行い、相手側のコートについては、相手にジャッジ権があります。 イン、アウト、ノットアップも自己申告です。